

中学校道徳教育における授業力の育成

柳堀 俊夫

はじめに

21世紀の教育を展望した新学習指導要領が平成20年に公示されその改正の概要として、子どもたちの「生きる力」を育成するためには、確かな学力と道徳教育や体育などの充実により豊かな心や健やかな体の調和のとれた育成を図ることが示されている。

このような時期に、今日の子どもの心の問題については、自制心や規範意識の希薄化をはじめ様々な問題や課題が指摘され道徳教育を中心とした心の教育の充実が求められている。

本授業は、上記の事柄を踏まえ、広い視野と高い識見をもって将来教育職の道に進もうとする強い意志をもった学生を対象に、学校教育における道徳教育の基本的な考え方の理解を深め「道徳の時間」の指導能力が向上するよう授業を進めることにした。

1 道徳の時間の授業を受けた経験

さて、最初の授業開始時には、履修学生に対して小・中学校段階における「道徳の時間」の授業経験の記憶について事前調査をしている。

選択肢は〔1記憶ある、2ほとんど記憶ない、3記憶ない〕であるが、2、3の回答者が約6割に達している。その理由として、学生が在学した当時の学校の教育環境等でさまざまな原因があり、学級活動や教科の補填授業になったようで「道徳の時間」の授業イメージがもてない

ということであった。この現状を踏まえ学生が実際に教育現場で行う道徳の時間の授業が生徒の心に残るよう“読み物資料”を使った道徳の指導の仕方を学修し、実践力がつく授業を目指すためのガイダンスを行った。

2 ガイダンスの内容

(1) 授業のねらい

- 1 道徳教育について基本的事項を理解する。
- 2 道徳の時間の展開の仕方を理解する。
- 3 読み物資料を使った指導案の作成要領と指導方法を身に付ける。
- 4 模擬授業を行い道徳の授業のイメージを掴み指導能力を養う。
- 5 教育実習で行う道徳の授業の授業力を養う。

(2) 授業の進め方

授業では、道徳の基本事項をレジメに示した「授業ノート」(A4) 1枚を配布し講義だけではなく、学生との対話と授業ノート記述を取り入れ、別刷りの講義資料を配布する。

以下に授業内容を示す。

- 1 心の教育が指摘されているのはなぜか、今日の青少年問題から背景を探る。
 - ・子どもの置かれている現状を考察する。
 - ・社会の変化と子どもたちの現状の姿を考察する。
- 2 学校における道徳教育の在り方について理解を深める。

- ・ 道徳の概念及び道徳教育の意義
- ・ 道徳性の発達と道徳教育の役割
- ・ 戦後の道徳教育の歴史と教育勅語
- ・ 道徳教育の目標と指導内容の理解

3 中学校段階における読み物資料を利用した道徳の時間の模擬授業を行う。

- ・ 資料分析，道徳指導案を作成する
- ・ 模擬授業を体験し指導方法を身に付ける
- ・ 模擬授業評価アンケートを実施する

4 課題図書「梅原猛の授業・道徳」を読み，読後にレポートを作成し提出する。

3 授業運営

中学校学習指導要領解説道徳編「文部科学省」を参考に課題図書の読後レポート作成から人間としてよりよく生きる生き方と道徳観について考察し，学校における道徳教育の目標を理解し「道徳の時間」の授業を実践的に学修する。

(1) 授業計画

表1【授業計画】

- | | |
|---|--|
| 1 | 授業ガイダンス，
・ 今，なぜ，心の教育か |
| 2 | 道徳の意義 人間として望ましい生き方 |
| 3 | 道徳教育の意義 |
| 4 | 教育の目的と道徳教育の目標との関連
・ 戦後の日本の教育の原点をみる
(VTR視聴) |
| 5 | 道徳の時間の目標と内容
・ 道徳的実践力とは |
| 6 | 道徳の時間の指導はどう進めるか
I，II |
| 7 | 道徳の時間の授業展開の実際に触れる |
| 8 | 読み物資料の分析方法 【実習】 |

9 道徳の時間の指導案作成の手順
【実習】

- 10 模擬授業の進め方
- 11 模擬授業の実施【1・2・3・4】
- 12 まとめ，これからの道徳教育

(2) 授業展開

表1の授業計画に基づきそれぞれの授業で説明する項目をレジメに示し，授業内容が記述できるようにスペースをとった「授業ノート」を用意して進めた。

【授業ノートNo1】

『今，なぜ，心の教育か』

- 1 子どもたちに置かれている現状は
- 2 こどもを取り巻く様々な問題
- 3 変化の激しい時代に求められる生き方は
- 4 学習指導要領改訂の基本的ねらい
- 5 生きる力の理念の共有と道徳教育
- 6 生きる力の育成を図るためには

今日の変化の激しい社会環境の中に置かれている子どもたちの現状と課題について以下の事項について考察する。

1 [社会全体の教育環境の問題]

- (1) 人間関係の希薄化，他者認識の欠如
- (2) 社会全体の規範意識の低下
- (3) 価値観の多様化，価値観の混乱
- (4) マスメディアの影響と情報の氾濫

2 [しつけや少子化，家族関係の問題]

- (1) 親の過保護や放任，教育力の低下
- (2) 核家族や少子化の進行，親の存在感の希薄化

(3) 年齢に即した「自立」の遅れ

3 [現在の学校教育が抱えている問題等]

- (1) いじめや不登校
- (2) 暴力行為や学級崩壊
- (3) 知識偏重や進学中心の指導

- (4) 教師の資質，力量不足
- 4 [時間，気持ちにゆとりのない生活]
- (1) 充足感や達成感の不足
- (2) 居場所がない，自分の感情を抑えられない
- (3) 自己中心的で自己確立がされていない
- 5 [子どもたちの意識・行動面の問題]
- (1) 社会性や倫理観，思いやりや生命尊重の欠如
- (2) 自己肯定感や他者認識の希薄
- (3) 自立の遅れやコミュニケーションスキル不足
- 6 [生活体験，自然体験不足]
- “わくわく，ドキドキ体験の不足”
- ⇒「無気力・無感動」

【授業ノートNo 2】

『道徳教育の基本的事項の理解を深める』

- 1 マナー，エチケットの問題事例
- 2 道徳の意義
 - ・道徳とは
 - ・人間として望ましい生き方とは
- 3 道徳教育の意義
 - ・道徳教育とは
 - ・道徳性のとらえ方
 - ・子どもと共に学ぶ教師
- 4 道徳性の発達には

道徳の意義では，JR新大久保駅でホームから転落した男性を助けようとして亡くなった韓国人留学生，李さんを哀悼する新聞記事（2001年）と課題図書の後感想から授業に関連した内容を紹介して，道徳教育について関心を高めた。学生が記述したレポートの一部を抜粋する。

「この本を読んで，道徳心の衰退は最終的に人類を滅ぼすと思った。なぜなら，現在，人の命を奪ったり，人を欺いたりすることが増えていて，その原因が道徳心の低下にあると考えられるからである。

道徳とは，本来生物が持つものと考ええるならば，進化の過程で道徳心が失われていくことは悲しい。人間の生活が便利になる代償がこれではおかしい。豊かな生活とは人が人を思いやり，自分を含め全てのものの幸せを願って生きていける環境だと思う。そのために道徳があって，昔から宗教があったと思う。現在は，日本を含め宗教の信仰は弱まっているところが多い。理由は科学的でないからである。この状況で意識改革するには学校の授業が一番効果的だと思う。なぜなら，義務教育では子どもたち全員を対象にでき，子どもたちの考え方は柔軟であるからである。だから，私は道徳の時間の必要性を感じた。形だけでなく中身のある授業がこの世の中の歪みを直せると思った。」

【授業ノートNo 3】

『教育の目的と道徳教育目標の関連』

- 1 教育の目的 教育基本法第1条と第2条
 - ・教育基本法の前文
 - 2 道徳教育の目標 ⇒道徳性を養うこと
 - 3 終戦までの道徳教育
 - ・教育勅語 ・修身教科書
 - 4 戦後の日本の教育の原点を知る
 - ・S22年「教育基本法」が制定された経緯
 - ・VTR視聴と感想レポート作成
- (NHKスペシャル番組)

VTRは，戦後の日本の教育方針と教育基本法が定まるまでの経過を戦前の教育勅語の規範と関連させた内容であるが，視聴後の感想で記述したレポートの一部を抜粋する。

「軍国主義の国家から民主主義の国家へと変動していった。日本国のために自身を捧げるといふ精神を問題視し，国民の意識を変えるため道徳が必要であったのだと思った。現在の教育方針は政治的歴史的背景が色濃く残っており，ある意味での過去の過ちが現在の我々の道徳教育

の理念の根幹，礎を築いているのだと改めて認識した。しかし，国家のために身を捧げるといふ理念体形が軍国主義という独走状態を形成し戦争の勃発，敗戦を招いたことは分かるのだが，いかにして具体的に“教育勅語”の何が誤りだったのかの確信がVTRからでは持てなかった。“道德教育論”の授業を通して，様々な教育に関する知識，興味を深め確固たる自分の考えを持ちたいと思う。」

【授業ノートNo 4】

『道德の時間の目標と内容及び性格』

- 1 戦後の道德教育の歩み
 - ・ S 22年4月教育基本，学校教育法施行
 - ・ S 22年学習指導要領制定 社会科創設
 - ・ S 33年「道德の時間」が特設
- 2 道德の時間の目標
 - ・ 道德的实践力とは何か
- 3 道德の時間の内容及び内容項目
 - ・ 4つの視点と24の内容項目
- 4 道德の時間の性格
 - ・ 全教育活動の道德教育を補充，深化，統合の時間

5 道德的实践と道德的实践力の関係

・ 事例から考察する

「電車の席譲った中学生に主婦感謝」

事例では，高齢の主婦が校外学習で駅にいた中学生から先に乗車し席を譲ってもらったことが契機となって中学生と交流を続けている新聞記事（朝日）を紹介する。

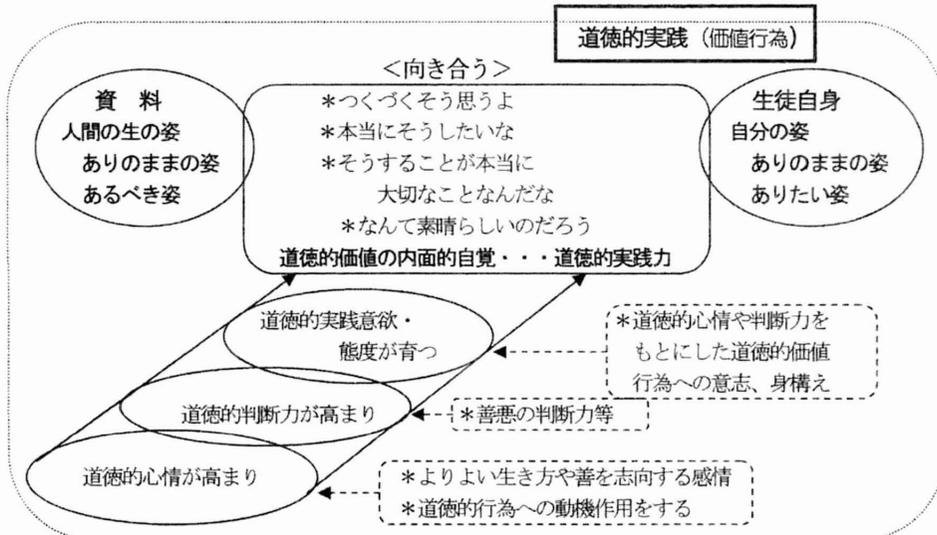
【授業ノートNo 5】

『道德の時間の授業はどう展開するか』

- 1 道德の時間の指導の基本事項
- 2 “読み物資料”の活用の意義
- 3 道德的価値認識のしくみ
- 4 【実習】
 - ・ 資料の主人公の振舞いを主眼に熟読し分析表を作成する
 - ・ 分析表から主題設定と中心発問を決める。

読み物資料を使う授業展開の意義は，図1で示した「資料と道德的实践力の育成の方向」を参考にして，生徒同士の話し合いを重視した時間の中で生徒自身が道德的価値を認識していく

図1 道德の時間に使う資料と道德的实践力の育成の方向



過程を説明する。

また、実習では、図2で示した「道徳の時間の価値認識の仕組み」を参考にして、読み物資料の世界の主人公と自分自身を照らし合わせながら“自己投影”して、道徳的価値に気づく仕組みを説明する。

【授業ノートNo6】

『指導案作成の手順と授業展開』

- 1 指導過程（授業の流れ）と資料の位置づけ
 - ・導入、展開、終末の扱い方
- 2 展開部における教師の発問の仕方及び話し合いと討論のさせ方
- 3 [実習]
 - ・資料の選定と主題設定
 - ・資料分析と発問構成
 - ・指導過程の検討と終末段階の教師説話原稿作成

指導案作成にあたっては、道徳資料集から各自がねらいとする内容に適した資料を選定して作成する。また、導入部では教師が資料を範読して、主人公や登場人物が振る舞う場面が生徒

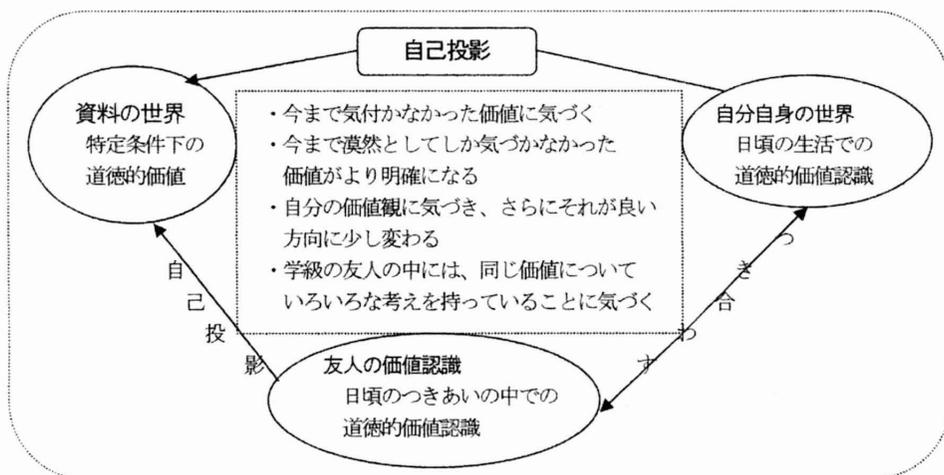
にイメージできるよう読むことに留意して反復練習する。

【模擬授業の実施】

【実施要領】

- 1 授業者は、作成した指導過程に沿って授業を進める
- 2 学生は、生徒の立場になって積極的に発言して授業者に協力する
- 3 指導過程は次の要領で進める
 - (1) 導入部 ねらいとする価値に関係した経験などを発表する
 - ・資料を教師が範読する
 - (2) 展開部 補助発問・中心発問して生徒の発言から価値に迫っていく
 - ・心の窓ノートの活用
 - (3) 終末部 教師のこぼれ
 - ・本時のねらいに関連して教師が体験したことや感想を話す。
- 4 授業者に対する評価アンケート記入

図2 道徳の時間の価値認識の仕組み



模擬授業が終了後、授業者に対して授業を表2による評価の観点について評定尺度により記入し、授業全体の感想を記述欄に記入する。アンケート用紙を回収した後、教員が個別に授業者へ助言を与えて返却する。

表2【模擬授業評価アンケート】

	評価の観点	評価点
1	導入段階の工夫は適切か	
2	資料の範読は適切か	
3	発問の仕方は適切か	
4	発表のさせ方は適切か	
5	教師の言葉づかいは適切か	
6	教師の説話は適切か	
7	生徒と共に考えていたか	
8	板書の工夫は適切か	
9	指導案の出来栄は良いか	

※9は教員が評価する

4 非常に	3 ある程度
2 あまり	1 まったく

4 本授業で養ったもの

本授業が終了する段階で、道德教育についてどのようなことを考えたかを記述したレポートの一部を抜粋する。

- ・道德は大切な授業だと思った。学校で教える（考えさせる）内容で一番生徒を成長させることができると思う。道德の授業の方法が具体的に分かった。
- ・道德は自らが学ぶものではないと思っていた。しかし、自分が道德の授業を受けて気づいたのは、身近な私生活から学べるものだという。また、より良い人間性を養うには、道德の授業は大事な時間なのだと認識した。
- ・道德教育は人間が成長する上で重要な教育

であると感じた。自分の高校時代では、道德の授業を受けた覚えがないので、高校でも行うことが必要だと思う。

- ・この授業を受講して、道德教育が人間を育てるにあたって、重要なことを改めて認識した。道德を学ぶことで、人としての正しい在り方を身に付けることができる。授業の課題図書で読んだ中からも学ぶこともでき良い機会だった。
- ・人間の在り方、生き方について普段深く考える機会がなかったが、この授業で沢山考えさせられる事があった。道德の授業にはハッキリ答えが決まってないから他の教科より難しく準備をしっかりとすべき科目だと思った。同時に教師自身が人間として大きく成長できる最も重要な科目だと感じた。
- ・この授業から自分自身が生徒と共に成長できると感じた。教師になりたい意欲がさらに強くなった。道德の授業は他の科目と違い答えがないものだが、人間としての理想を追い求められる科目だと思う。
- ・模擬授業経験が初めてで戸惑い、緊張したが、今まで道德に対する意識、関心は低かったが、この授業を通して高めることができた。
- ・模擬授業の展開で、生徒と考える内容をどうしていけばよいか等、考えさせる段階が自分にとって山場を感じた。生徒に意見を発表させる発問や授業のイメージがはっきりと浮かばなかったのだが自分の授業を作り上げられたため、貴重な授業の時間を過ごせた。
- ・道德の授業を教師の視点から考えとことがなかったので、道德の授業に必要なことが学べ模擬授業の経験ができてよかった。生徒役から意見が多く聞けたこともよかったと感じた。
- ・模擬授業を初めて体験し、今まで気に留めていなかった道德の授業をする為の知識、生徒との触れ合いなどが分かり易く楽しい授業だった。

5 おわりに

道徳教育の価値認識が浅かった履修者が、学校教育の段階で数々の経験を積み重ね培われてきた成長過程で欠落していたものに何かあったのではないかという仮説のもとに進めた。

本授業終了時に実施した授業レポートからは様々な感想が述べられており、道徳の授業イメージが掴めたこと、そして「道徳の時間」は人間の成長基盤となる心が耕され、人間の生き方や在り方を考える最も重要な時間であるということが認識されていた。そして、生徒と共に考えて教師自身も成長したいという将来の教師像も述べられていた。間もなく経験する教育実習の場において自分自身の教師の適性を確かめるものと期待している。

なお、教師の指導能力として「道徳の時間」で使う資料分析力や活用能力を付けるためにはどのような授業を行うか今後の課題としたい。

参考書

- 1 『中学校学習指導要領解説 道徳編』
文部科学省 平成20年
- 2 『梅原猛の授業・道徳』 朝日新聞出版
- 3 『中学道徳 きみがいちばんひかるとき』
光村図書出版